

第 12 回静岡県史編さん委員会 審議概要

- 1 開催日時 令和 5 年 3 月 9 日（木） 午前 11 時 15 分から正午まで
- 2 開催場所 県庁別館 9 階第 2 特別会議室
- 3 出席委員

川勝	平太	会長	（静岡県知事）
藪田	宏行	委員	（静岡県議会議長）
菊地	豊	委員	（静岡県市長会会長）
岩崎	清悟	委員	（前一般社団法人静岡県経営者協会会長）
山本	義彦	委員	（静岡大学名誉教授）
鬼頭	宏	委員	（静岡県立大学特別顧問）
堀川	知廣	委員	（静岡産業大学学長）
岩崎	康江	委員	（一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会会長）
鍋倉	伸子	委員	（株式会社戸田書店代表取締役）
出野	勉	委員	（静岡県副知事）
池上	重弘	委員	（静岡県教育長）
土村	暁文	委員	（静岡県経営管理部長）
- 4 欠席委員

後藤	康雄	委員	（静岡商工会議所名誉会頭）
太田	康雄	委員	（静岡県町村会会長）

5 会議内容

(1) 議題等

ア「資料編 産業・経済」の編さん状況について	
（報告）	「資料編 産業・経済」の編さん状況を報告
イ「資料編 政治・行政」の構成案について	
（審議結果）	構成案に沿って編さん作業を進める。

(2) 意見交換・質疑応答の概要

ア「資料編 産業・経済」の編さん状況について

イ「資料編 政治・行政」の構成案について

（在来産業の定義について）

○鬼頭委員 「在来産業」の定義について、一点教えていただきたい。我々経済史をやっていると、在来部門というのは、近代化以前の江戸時代からの産業、つまり経営形態が家族的な経営や小規模のもの、あまり機械化が進んでいないというものを考える。あるいは、明治になってから、江戸時代にはなかったような新しい製品、特に金属産業等もそうだが、その経営形態の上から「新在来部門」といったりすることがあったかと思う。

この「在来産業」と言っているのは、先生も言い直されて、例えば「地域産業」とか「地場産業」というような言い方も当たっているのかなというようなことをおっしゃられたかと思うのだが、この中にピアノや造船等が入ってくると、これを「在来産業」と言っているかどうか。それよりむしろ「地域産業」「地場産業」と言った方がいいのかというような印象を受けたのだが、ここで「在来産業」という言葉が使われた趣旨や、あるいはその意味、定義等について教えていただきたい。

○山本委員 元はといえば、在来伝統産業なのだが、ただ、県庁の概念をずっと見てみると、そういうものを「在来産業」として言ったときには、伝統産業的なものと、それから明治以降形成している中小零細工業や地域立地型産業という幾つかの類型を含めて、「在来産業」と

いう概念がはまり込んでいると思われる。そのため、どうするか少し悩んでいる。

当初、地域地場産業的に展開したという意味ではそこに入れても良いが、その後にはやはり県を代表する代表産業として考えられている。

○鬼頭委員 そうですね。はごろもフーズも入っていますからね。

○山本委員 そのように変わってきているので、その位置を少し変えたほうが良いと思いながら、場合によってはそちらに入れたり、もう少し時代を下れば後に置き換えたり、工夫してみた次第である。

○鬼頭委員 分かりました。

○山本委員 解説では少しそのことに触れている。

○鬼頭委員 それは最初のところで提示していただければ全然問題ないと思います。ありがとうございます。

(女性に係る問題等について)

○池上委員 取り扱っている時代の中で、恐らく女性の社会進出、あるいは職場進出という、女性の働き方の変化がかなりドラスティックに変わっただろうと思われる。そこで、女性の就業や女性が産業において占める役割の変化のような視点が、どこかで書かれているといいのではと感じた。

端的に言うと、1960年代—70年代までと言ってもいいかもしれないが、この頃は中卒・高卒が多かった。短大等に行くようになったけれども、いわゆる一般職の労働者として、結婚・出産で退職をし、専業主婦になってくる。その専業主婦の家事労働をベースに、「男は24時間戦えますか」ということで時代が過ぎていった。ところが、ここで描かれている90年代以降、2000年代が顕著だと思うが、女性の進学率の向上等もあって、より専門的な仕事、総合職的な仕事にも関わってくる。男女雇用機会均等法の影響等である。また一方で、出産等で一旦は就業から離れても、M字回復などという言い方もあるが、女性が産業分野において一定の役割を果たしているという傾向もある。

資料編なので、産業・経済がどうなっていたかという構造的な話だろうと思う一方、今のジェンダーの視点というものをこの中に盛り込むことはできないのかというのが、聞いていて一番感じたことである。

○山本委員 大変貴重な御発言をいただいて、ありがとうございました。

実は、この「産業・経済」でも、随分女性の活躍が出てきて、各分野ごとに事実資料としては入れているのだが、だからといって女性の問題をここに描くとなると、なかなか描きづらい。なので、今御指摘いただいたものは、当初から「社会・文化・教育」で全面的に展開するように予定していて、その関係の委員の御協力を得て処理しようかと思っている。

○池上委員 ありがとうございます。

○鍋倉委員 今、女性の問題が出たので、そのことに関して。

第4編第1章第3節に、「機械工業、化学のハイテク化」の次に「サービス産業展開」という言葉が出てきている。サービス産業というと、流通や医療、福祉、小売、その他様々なサービス産業があるが、実際にサービス産業に従事しているのは女性である。それも、なかなか十分な収入が得られないパート労働の女性が就業しているということが多いので、そのサービス産業をもう少しクローズアップしていただいて、そこに多分女性の就業の問題が出てくるのではないかと思っている。

例えば、医療や福祉も一種のサービス産業であるが、普通はそれを受ける市民にとって、どれだけのサービスであるかという問題になる。だが実際には、それは1つの産業としてたくさんの雇用を生んでいるわけで、医療については静岡県は非常に重要視しているものである。そういう観点からも取り上げていただきたい。

○山本委員 大変ありがとうございました。

医療福祉の問題は、「政治・行政」と「社会・文化・教育」で扱う予定である。

サービス業について少し述べなくてはいけないのは、悩ましい問題なのだが、実は情報産業もサービス業となっている。今の統計の在り方が少し問題かと思うのだが、情報化の問題はこちらでも扱っているのも、これはいけると。今おっしゃったような、あるいは池上先生がおっしゃったような角度の問題というのは、基本的にはやはり「政治・行政」と「社会・文化・教育」で担当者がいて、そこで展開するように予定しているため、よろしくお願いいたします。

(産業政策に係る金融について)

○堀川委員 感想であるが、それぞれのところで、金融について精査されることになっていて、これは大変ありがたい。なかなか産業政策の中で、金融について独立して特出しして、各時代の金融の役割を整理しているところがあまりない。大学の授業で教えるときに、これからの金融の在り方をどうするかということもあって、この高度経済成長から最近までの金融のそれぞれの役割を整理していくことになっているため、これは大変ありがたいと思っている。

同時に、これから静岡の産業をどのようにしていくかを踏まえて考えると、観光や、農業はもちろん食料も含めた農業であるが、それについても相当深く論点を整理していただいて、大変ありがたく思っている。できるだけ早く、また出来上がったものを読ませていただいて、いろいろ参考にしたいと思っている。

(静岡県経済の海外志向と IGF 計画について)

○岩崎清悟委員 2点あるのだが、総体としては、先ほど先生がおっしゃられたように、かなり早い段階から静岡県の経済は海外志向の芽があった。これは非常に大事なところで、恐らくトータルとして統計を取ると、海外比率がどんどん増えて来ているのがわかる。

今、ものづくりの産業などにおいても、もう海外の比率のほうが圧倒的に高い。やはりそういう経済の流れというか、それが歴史的に形づくられてきたという記述になると非常に特徴的なものが出てくるかと思われるため、ぜひそこは書きいただければありがたい。

もう1つ、「熱源転換」という言葉が出てくるが、「熱源転換」というよりも熱量変更の「IGF21 計画」から入っていったほうがよろしいかと思う。これは経産省、ガス事業者、官民を挙げて、高カロリー化のガスに統一しようという「INTEGRATED GAS FAMILY (IGF)」という計画があって、これに全事業者が取り組んだのである。まさにこの業界にあっては画期的なことで、これが2010年頃までに完成するというような足取りであるので、そのあたりに視点を変えたほうがよろしいかと思っている。

○山本委員 ありがとうございました。

実は、資料としては入れていくが、ここの記述をどうするかとても難しいと考えていて、どういうふうに章を作るか悩ましいと思ったところなので、参考にさせていただきたい。

(原子力発電について)

○川勝会長 資料編の「政治・行政」について御説明いただいたが、原子力発電は防災政策のところに落とし込むだけでいいか。やはり360万キロワット分出せる巨大なものなので、もちろん福島第一原発以降は事情が変わったが、それ以前は原発で5割ぐらい占めようではないかという位だったので、やはりエネルギー政策の中に原子力発電について、70年代、80年代、90年代ぐらいのところで少し触れておいたほうが良いのでは。防災の観点から入れておいても良いが、別にこの原子力発電と地域防災と矛盾するものではないのでは。

○山本委員 工夫は可能なので、少し考えます。

(審議とりまとめ)

○川勝会長 貴重な御意見をいただいたが、資料編「産業・経済」並びに「政治・行政」について、編さんを進めていただくということでよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

○川勝会長 ありがとうございました。

それでは、承認をいただいたので、今日いただいた建設的な意見も御考慮いただいた上で、編さんを進めていただければと思います。

それでは、以上で本日の議事は終了します。